

外観

- ・国立公文書館については、隣接する国会議事堂との調和を図るため、議事堂と同じ色調である桜御影石を使用するとともに、憲政記念館には、近代建築材料である金属（アルミニウム合金の鋳物）、ガラス等を基調としたデザインとし、両館の独自性を表現する。



【国立公文書館及び憲政記念館西側外観】



【永田町・霞が関地区の景観】

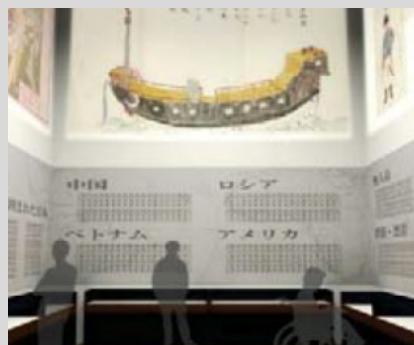


展示・学習

- ・大階段・展示ホールは、伝統的な左官仕上げの壁や、ナラ等の木材を利用した床や階段等により、日本らしさを感じられ、我が国の重要な文書に相応しい空間とする。
- ・展示室は、先端技術を活用したデジタル展示にも対応できるフレキシブルな空間とする。



【展示ホール・大階段】



【デジタル展示のイメージ】

※展示内容・手法等については、今後検討予定

調査研究支援

- ・閲覧室については、床に木材（ナラ）を積極的に利用するとともに、什器にも木材を取り入れることで、親しみやすく落ち着いて学べる空間とする。



【閲覧室：80席程度】

保存・修復・デジタル化

※外部環境や地震の影響を受けにくい地下階に保存機能を配置

- ・書庫については、高性能フィルター等により有害物質濃度を適切に管理するとともに、専用空気調和機により温湿度の管理や空気の滞留を防ぐことで、収蔵物に適した保存環境とする。
- ・修復作業室・書庫を観覧できる空間は、透明度を調整可能なガラスを採用し、時間帯によって柔軟な公開を可能とすることで、職員の作業環境確保やセキュリティ対策と一般公開の両立を図る。
- ・サーバー室について、将来の増設を見越した配置、配線ルートを確認する。



【修復作業室：公開時】



【修復作業室：通常作業時】